

St. Luke's International University Repository

Basic Nursing Skill Exercises Intended for Active Student Learning: Stepwise learning method

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐居, 由美, 亀田, 典宏, 西本, 葵, 相吉, はるな, 縄, 秀志, Sakyo, Yumi, Kameda, Norihiro, Nishimoto, Aoi, Aiyoshi, Haruna, Nawa, Hideshi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016738

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



短 報

学生の能動的学習を意図した基礎看護技術演習 —段階的な学習方法を用いて—

佐居 由美 亀田 典宏 西本 葵 相吉はるな 縄 秀志

Basic Nursing Skill Exercises Intended for Active Student Learning —Stepwise learning method—

Yumi SAKYO* Norihiro KAMEDA Aoi NISHIMOTO
Haruna AIYOSHI Hideshi NAWA

[Abstract]

This paper reports students' learning in "Basic Nursing Skills I," a course aimed at mastering nursing capabilities. The course follows a stepwise learning method, such as "checking nursing skills procedures," followed by "individual practice". In addition, as a measure to prevent infection caused by the COVID-19 pandemic, the number of trainees per exercise was reduced. Furthermore, adequate ventilation was provided and close contact was avoided. Face shields were worn during in-person exercises, and alternative exercise days were provided for all absences due to fever or close contact. Through a web-based questionnaire after the class, participants were asked about the usefulness of the step-by-step method, on a 5-point scale, where approximately 80% of them opted for "very useful." Furthermore, this method encouraged students' active learning and motivated them to empower more advanced nursing skills. Based on the feedback from the students, better exercises will be considered further, with COVID-19 infection control measures.

[Key words] Basic Nursing Skills, Active Learning, Step-by-Step Method, COVID-19 Pandemic

[要旨]

本稿では看護技術習得を目的とした科目「基礎看護技術論 I」における学内演習および学生の学びについて報告する。2022年度の演習は、例年と同様に、全身清拭、陰部洗浄、車椅子移動、病床環境の整備、口腔ケア/食事介助等を実施し、「手順用紙の内容確認」、その後に「個人演習」と、段階を踏んで学習する方法とした。COVID 19感染予防対策として、密を避けるため1回の演習人数を減らし換気を徹底した。対人での演習はフェイスシールド着用とし、発熱や濃厚接触によるすべての欠席に代替演習日を設けた。演習終了後のWEBアンケートでは、段階を踏んで習得する演習方法について5段階で質問した結果、約8割が「非常に役立った」と回答した。さらに、学生の自由記述より、段階を踏んだ演習方法は、学生の能動的学習を促すと共に看護技術の探求の動機づけとなっていることが明らかとなった。学生からのフィードバック内容を踏まえ、今後も感染対策を講じつつ、よりよい演習方法を検討していく。

[キーワード] 基礎看護技術, 能動的学習, 段階的演習, COVID 19

I. はじめに

2020年度からのCOVID-19感染症の流行により、看護基礎教育においても対面での技術演習が困難な状況が続き、遠隔学習を余儀なくされている。聖路加国際大学看護学部2年生の看護技術習得を目的とした科目「基礎看護技術論I」においても、2020年度前期はほぼ在宅学習にてカリキュラムを運営したが¹⁾、2021年度より、事前自己学習、手順確認グループワーク、看護技術の自己学習を経ての個人演習といった段階的演習方法を、徹底した感染対策のもと実施した。本稿では、COVID-19蔓延下で行った、2022年度「基礎看護技術論I」の段階的演習方法における学生の学びの内容について、COVID-19感染症対策を含めて報告する。

II. 科目概要と演習方法

1. 科目概要

「基礎看護技術論I」は看護学部2年生100名を対象とした必修科目（2単位）であり、前期の4月～7月に配置されている。本科目では、学習目標を“People-Centered Careの理念のもとに、看護の対象が各個人の最適健康状態を生み出せるよう、日常生活行動に関連した基礎看護技術についての基本的知識・技術を習得する”とし、安全・安楽、感染予防、ボディメカニクスといった看護技術における基本的知識を講義で学び、全身清拭、陰部洗浄、車椅子移動、病床環境の整備、口腔ケア/食事介助等の日常生活援助に関連した看護技術について、講義、自己学習や演習を通して習得する（表1）。

2. 演習方法

本科目では、看護学導入期の学生のレディネスをふまえ、ステップを踏んで学習する演習方法を取り入れている（図1）。学生は講義による基本的知識をふまえて、

教員によるデモンストレーションを見学する [ステップ1]。次に、自己学習課題としてweb教材や文献をもとに看護手順用紙を個人で作成したうえで、グループで看護手順の内容をディスカッションするワークを行う [ステップ2]。その後、学生は個々に放課後や空き時間を活用して技術の自己練習を複数回行い、最終的に個人演習にて教員が習得状況を確認している [ステップ3]。各ステップのインターバルは1週間から2週間程度設け、学生は空き時間や放課後を活用して、実習室にて看護技術の自己練習²⁾を行って次のステップの準備をする。[ステップ3]にて習得状況が十分でない場合は、再び、個人演習を実施する。

III. 学内演習の感染予防対策

1. 3密回避

COVID-19感染症の蔓延が続くなか、対面での看護技術演習を安全に実施するため、1回の演習人数をコロナ前の約7割に減らして演習室内の密を回避した。加えて、窓をあけて通気する時間を設定すると共に、演習室のドアを常に開放し換気を徹底した。

表1 看護技術演習項目

演習項目	看護技術項目
演習①	<ul style="list-style-type: none"> 全身清拭・寝衣交換 陰部洗浄 車椅子移動/体位保持 就床患者のオールリネンチェンジ/毎日のベッドメイキング
演習②	<ul style="list-style-type: none"> 浣腸 導尿 吸引 食事介助/口腔ケア
演習③	<ul style="list-style-type: none"> 体位保持 便器尿器のあて方



図1 本科目の演習方法

2. 身体接触を伴う看護技術における感染対策

演習室の出入り口や各ベッドの床頭台には手指消毒剤を配備し、入退室前後や演習前後での手指消毒を必ず実施できるようにした。また、車椅子移動や全身清拭の演習など、学生同士で身体接触を伴う看護技術項目を実施する際には患者役学生が個人用フェイスシールドを着用し、接触飛沫感染への防護を行った。

3. 学習機会への配慮

発熱や濃厚接触によって在宅学習となったすべての学生に代替演習日を設け、学習の機会を均等に提供できるように配慮を行った。

IV. 科目評価結果

履修学生を対象に科目終了後にwebアンケートを実施し、学生のデータについて分析した。履修者100名のうちアンケート回答者は94名であった。

〔倫理的配慮〕科目評価終了後、クラウド型教育支援サービスmanabaにて、アンケート集計結果を学生と共有し、アンケート結果を科目改善のために公表する旨、および、公表に不同意の場合の申し出を受け付ける旨、告知した。約2か月の申し出期間中、学生からアンケート集計結果公表への不同意の申し出はなかった。

1. 学習目標到達に対する影響

「講義/演習内容は学修目標の達成にどのくらい役立ったか」について、5段階（非常に役に立った、役に立った、どちらでもない、あまり役に立たなかった、役に立たなかった）と質問した結果、約9割の学生が「非常に

役立った」と回答した。

2. 段階を踏んだ演習方法における学生の学び

「ステップを踏んだ演習方法は役立ったか」について、5段階で質問した結果、約8割の学生が「非常に役に立った」と回答した（図2）。さらに、ステップを踏んで行う演習方法についての具体的影響について把握するため、上記の問いに対する自由記述94件を意味のまとまりごとに類似性や相違性を比較しながら〈サブカテゴリー〉【カテゴリー】と分類を行った。以下に具体的な学生の「自由記述」と共に一部を紹介する（表2）。

1) 【段階を踏んで学習することで手技の理解や技術習得が深まる】

学生はステップを踏んで演習を行ったことによって、「ポイントを押さえて手順書を準備できた」「手順の根拠を確認してから次に進めた」という〈技術の理解が深まる〉経験をしていた。さらに、「段階を踏むことでゆっくりと確実に丁寧に技術を磨くことができた」「知識や技術で疑問点などを共有して解決し、インプットしてから実際に実践してみてアウトプットするということができ、確実に看護技術を身につけることができた」と、〈技術を磨くことができる〉〈根拠をもって確実な手技を実践できる〉とも捉えていた。さらに、「技術演習の前に手順用紙を確認し合うことで、より正確で効果的な方法を模索することができた」という記述もみられ、〈よりよい方法を積極的に模索することにつながる〉といった発展的な技術習得に向けた能動的学習に影響を与えていることがわかった。

ステップを踏んで、習得する方法は？

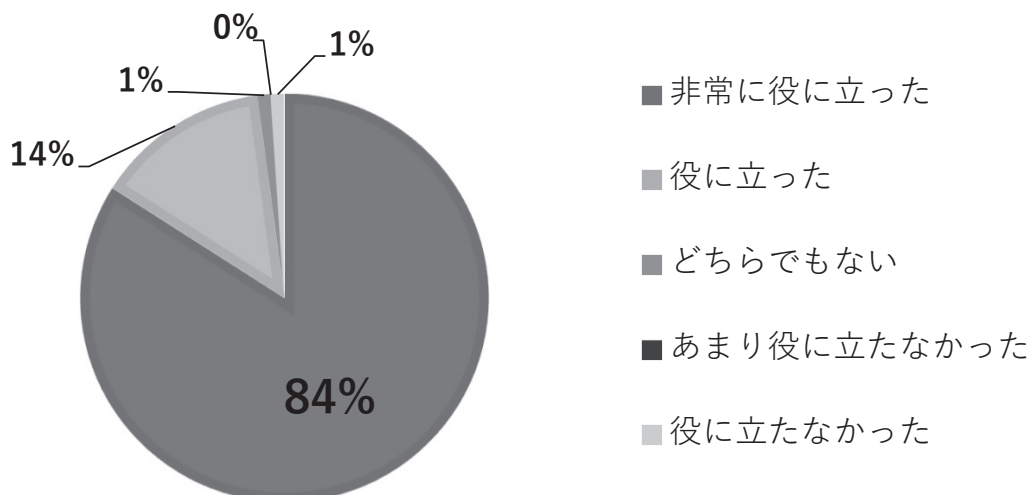


図2 ステップを踏む演習方法に対する学生の評価

表2 段階を踏んだ演習方法に対する学生の自由記述

カテゴリー	サブカテゴリー (件数)
段階を踏んで学習することで手技の理解や技術習得が深まる	技術の理解が深まる (13) 技術を磨くことができる (8) 手順を確認し整理したうえで次にすすめてよかった (7) いきなり実践ではなく他の学生と手順内容を検討したうえで演習ができてよかった (5) 根拠をもって確実な手技を実践できる (3) よりよい方法を積極的に模索することにつながる (3)
グループ学習によって技術に対する理解が深まる	みんなで分からない点を共有して手順について考えることができた (12) 自分では気づけなかった点までグループワークで話し合えた (7) よりよい方法をグループで話し合うことができた (5) みんなと話し合い段階をおうことで手順内容が記憶に残りやすい (4) ビデオ学習だけではわからなかった疑問をグループワークで解消できた (3) 教員からのアドバイスで理解が深まった (3)
段階を踏んで学習することで自己学習の質が上がる	よりよい方法を考えたうえで自己練習に励むことができる (5) わからない疑問を解決してから自己学習ができる (4) 段階を踏むことでスムーズに自己学習が行える (3)
練習方法や時間配分への影響	段階を踏むことでたくさん練習する機会があった (1) 緊張感のある場で手技を行うことの大切さを知った (1) 段階を踏むことで時間配分ができてよかった (1)
スケジュールや指導方法への要望	教員によって指導内容が異なり戸惑った (2) 時間が足りなかった (2) 正解を教えてほしかった (1) グループ間でも身につけた内容に差があったため、他グループとも共有したかった (1)

2) 【グループ学習によって技術に対する理解が深まる】

各ステップにおいてグループでの学習を配置したことについて、「他の人の方法を見て学んだり、わからないところを知ることができた」「自分が考え付かなかった問題点やその解決法を知ることができた」というように〈みんなで分からない点を共有して手順について考えることができた〉〈自分では気づけなかった点までグループワークで話し合えた〉〈よりよい方法をグループで話し合えた〉〈ビデオ学習だけではわからなかった疑問をグループワークで解消できた〉と記していた。さらに、グループ学習時には〈教員からのアドバイスで理解が深まった〉と記述する学生もおり、友人間および教員との相互作用により看護技術に対する理解を深めていく様子が見られた。

さらに、「手順確認で以前にまとめてやった内容を思い出せた」「みんなで話し合いながら効率よいやり方を考えることで手順書の暗記につながった」というように〈みんなと話し合い段階をおうことで手順内容が記憶に残りやすい〉という看護技術の知識の定着にも役立っていた。

3) 【段階を踏んで学習することで自己学習の質が上がる】

各演習のプログラムはグループ学習と個人練習（自己学習）を交互に行うよう配置していたが、学生は〈段階を踏むことでスムーズに自己学習が行える〉、段階を踏むことで〈よりよい方法を考えたうえで自己練習に励む

ことができる〉〈わからない疑問を解決してから自己学習ができる〉といったように、各段階において学生は少しずつ技術の理解や細かい手技の方法を習得し、円滑で効果的な自己学習ができるようになったと感じていた。

4) 【練習方法や時間配分への影響】

段階を踏んだ演習方法によって、〈たくさん練習する機会があった〉〈段階を踏むことで時間配分ができた〉と振り返る記述もあり、練習方法や学生の学習方法への影響をみることもできた。

5) 【スケジュールや指導方法への要望】

学生の記述には、ステップ1とステップ2の間が短く〈時間が足りなかった〉、他のグループの学習内容についても確認したいというスケジュールや指導方法についての要望もみられていた。

V. 今後に向けて

本科目の演習方法は、学生のレディネスに合わせて徐々にステップアップがされるように形成されている。科目終了後のアンケート結果より、学生は各段階を一つずつ達成していくなかで、次の段階の目標達成に向けて看護技術の内容を自ら考えるのみならず、グループメンバーや教員との相互作用のなかで、演習にて実践する看護技術を工夫しつつ習得している学習プロセスが明らかとなった。文部科学省による「学生が主体的に問題を発

見し解を見いだしていく能動的学修³⁾の重要性が説かれて久しいが、今回の結果に見られる「自分では気づけなかった点まで話し合う」「わからない点を共有して考える」、「よりよい方法を積極的に模索する」という学習プロセスは、学生が主体的に発展的な看護技術を探究する能動的学習の典型と言えるだろう。

また、はじめて看護技術を学ぶ看護学導入期の学生にとって、他者との知識や技術の共有は確かな手技を確立していくうえで重要な過程であることが明らかとなった。宮芝ら⁴⁾は「学生が他学生や教員に技術の適切性や実践への通用を保証してもらいながら技術練習を進めることが、技術習得という目標達成に不可欠」と述べている。本科目においても学生が自分一人では達成し得なかった課題を、グループメンバーや教員のアドバイスにより徐々に解決していくことが可能となっていた。グループワークにて、グループメンバーと共にメンバーシップをとりながら協働し課題を解決する学習は、本学のディプロマポリシー⁵⁾の「保健医療福祉においてリーダーシップを発揮し、協働する能力」獲得に寄与するものであることも確認できたといえよう。

加えて、本科目の学習により、学生は自己学習やグループワークを経て、看護技術について探究し、自らの学習内容を振り返りつつ、主体的に考え自ら実行していた。これらは、「人生100年時代の社会人基礎力（平成29年通商産業省）」⁶⁾にある、主体性や実行力が必要な「前に踏み出す力」および、「考え抜く力」「チームで働く力」習得に通じるものであることも捉えることができる。

このように、段階を踏んで行う演習方法により、学生は、個人の看護技術習得にとどまらず、主体的に考え協働する学習を行っていた。今後も、学生の準備状態に合

わせたよりよい演習方法の構築、各段階での個人とグループでのワーク、および、教員による細やかな技術指導は、本科目の学修目標の達成に不可欠な要素であろう。

2022年度もCOVID 19感染症が蔓延している。COVID 19感染症が本邦にて報告された2020年度以降の本科目の演習について振り返ると、前期科目であった本科目は、2020年度は在宅学習となった。そのため、段階を踏んで学習する方法を一部変更し対応した（図3）。対面での演習は、在宅学習期間中は実施出来なかったため（後期に補講を実施）、[ステップ2：グループディスカッション]は[教員による手順添削]となり、看護技術練習は在宅での実施¹⁾となった。本稿にて前述した、今年度の学生の学びについてのカテゴリー、【段階を踏んで学習することで手技の理解や技術習得が深まる】【段階を踏んで学習することで自己学習の質が上がる】【練習方法や時間配分への影響】の3つは、在宅学習であった2020年度には実施が叶わなかった内容であるとも推察され、2020年度の履修学生に対して卒業時まで、看護技術習得機会を提供する必要性が再確認された。

さらに、「2020年コロナ禍で学内演習が叶わない（対面演習不可）」という時期を経て、「2021年コロナ禍で感染対策に留意しながら学内実習を行える（対面演習可能）」状況となり、本稿において、2022年度に得られたアンケートの結果分析を報告するに際し、この科目の目標達成に向けたプログラムの意義を再確認できたことは大変意味のあることだとも考えている。

謝 辞

本科目に関連する全ての方々（履修学生の皆さん、教務課職員の皆さん）に深謝いたします。樋勝彩子先生は



図3 2020年度前期の在宅学習方法

じめ臨時助教の皆さんには、本科目の教授意図を理解し共に教育に携わってくださり厚く御礼申し上げます。LAの皆さん、ご自身の学習経験を十二分に発揮し、2年生の立場に立って、科目運営をサポートして下さること、いつも心強く思っています。ありがとうございます。

引用文献：

- 1) 緒方優, 佐居由美, 縄秀志ほか. コロナ禍における在宅学習としての日常生活援助の実技練習の取り組み. 聖路加国際大学紀要. 2021; 7:103-8.
- 2) 緒方優, 榎美樹, 賀数勝太ほか. コロナ禍における看護実習室の自己学習支援の在り方. 聖路加国際大学紀要. 2022; 8:162-5.
- 3) 文部科学省. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）（平成24年8月28日版）[Internet]. https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf [参照 2022-10-23]
- 4) 宮芝智子, 舟島なをみ. 看護技術演習における学生の行動－演習目標の達成に向けて重要な行動の明確化－. 日本看護学教育学会誌. 2012;21-3:1-11.
- 5) 聖路加国際大学 学位授与方針(ディプロマポリシー): [Internet]. http://university.luke.ac.jp/college_of_nursing/policy/diploma_policy.html.pdf [参照 2022-10-24]
- 6) 経済産業省. 社会人基礎力 [Internet]. <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> [参照 2022-10-24]